

チーム医療：褥瘡回診（褥瘡対策委員会）

一関係部署一

形成外科	救命診療科
看護局	薬剤科
栄養管理科	リハビリテーション科

一概要一

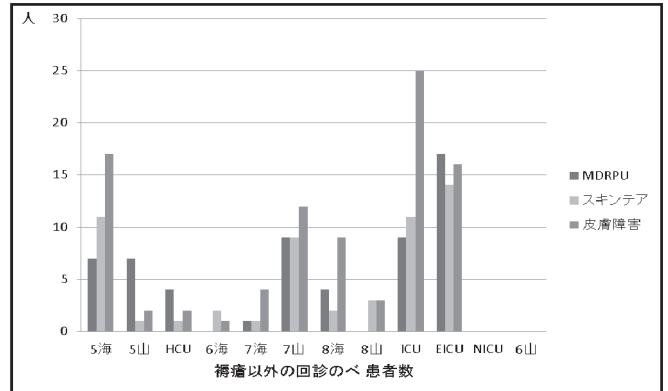
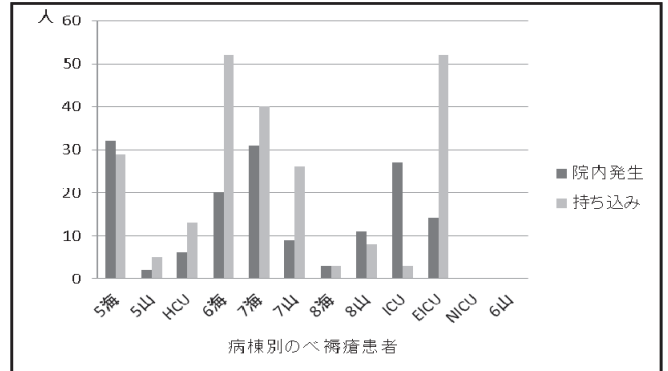
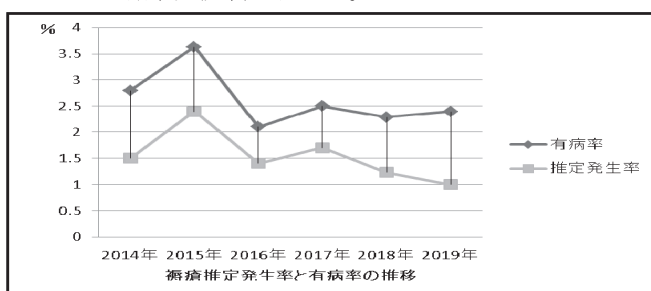
褥瘡対策委員会のメンバー構成は医師2名、看護師6名、薬剤師3名、栄養士2名、作業療法士1名、事務職1名の多職種で構成されている。褥瘡対策委員会は2カ月に1度開催され、主に院内の褥瘡対策指針や褥瘡対策マニュアルの修正などを行っている。その他に、チーム活動として毎週火曜日の午前中に形成外科医、院内認定の褥瘡エキスパートナース、病棟リンクナース、感染管理認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、薬剤師（2名は日本褥瘡学会が認定する褥瘡認定士）、栄養士からなる多職種のスタッフが協力して褥瘡回診を行っている。回診の対象となる患者は、基本的にNPUAP分類でI度以上の患者と医療機器関連圧迫創傷を発症した患者、スキンテアを発症した患者である。また、褥瘡のある患者は栄養状態に問題がある場合が多いため、栄養士が中心となってNSTチームとの連携を図っている。週1回の褥瘡回診までに褥瘡処置やケアで相談がある場合は、皮膚・排泄ケア認定看護師が窓口となり、緊急性を有する創傷の場合は形成外科医に相談できる体制を取っている。

一実績一

2019年度褥瘡データ

褥瘡回診日の入院患者総数16,394人中、回診患者数は延べ684名（うち褥瘡は393名）であった。褥瘡推定発生率は1.00%、褥瘡推定有病率は2.40%、医療機器関連圧迫創傷推定発生率は0.35%であった。

2019年度は弾性ストッキングによる医療機器関連圧迫創傷の軽減を目的に委員会主催で学習会を全体で1回開催した。また、看護局褥瘡・NST委員会と連携し、各部署で同様の学習会を開催した。その他として、新採用者への褥瘡チームの活動紹介や看護局新採用者への褥瘡計画書とスキンケアの講義と演習を行った。



一今年度の成果と反省点一

全国平均値や前年度の結果と比べると褥瘡推定発生率、褥瘡推定有病率ともに減少することができた。しかし、院内褥瘡発生の持ち込み褥瘡は全国平均と同程度であるが、当院の褥瘡治癒率は前年度と同様で17%であり、地域へ褥瘡を持ち帰っている現状である。褥瘡推定発生率の低値を維持していくため、褥瘡を有している患者だけでなく、褥瘡発生リスクの高い患者に対して継続的に褥瘡予防ケアなどが適切に実施できているか確認を行っていく必要がある。医療機器関連圧迫創傷を有した患者はのべ49名で昨年度よりやや軽減した。しかし、2019年度は失禁やおむつ関連の皮膚炎による皮膚障害を有した患者はのべ91名と前年度よりやや増加した。

一來年度への抱負一

褥瘡推定発生率の低値維持を目指して、院内褥瘡発生患者のデータ分析や症例検討を行い、褥瘡予防ケアを継続して取り組んでいく。褥瘡治癒率を改善していくために、回診日以外での壊死組織の除去やメンテナンスデブリードマンなどを取り入れた褥瘡ケアを提供できるようにしていきたい。また、失禁やおむつ関連の皮膚炎に関連した創傷を予防するためのスキンケア用品の見直しや予防ケアなどについて改善していきたい。